

企画名	手賀沼遊覧と鳥の博物館の親子見学会
実施団体	団体名 流山市立博物館友の会 問合せ先 間藤邦彦 TEL: 090-2651-4098 Email: matou@tbi.t-com.ne.jp ホームページ: http://hakubutukan-tomonokai.blogspot.jp/
目的	大堀川と手賀沼で水と環境の大切さを親子で学ぶ
日時	2016年10月2日(日) 10:00~14:30
プログラム・概要・ルート等	10:00 我孫子駅前 10:30 手賀沼で乗船(向陽丸) 11:30 親水広場(昼食・休憩) 12:30 鳥の博物館 13:30 手賀沼の側道で探鳥散策 14:30 解散
参加対象	小学3年生以上保護者同伴
参加人数	一般参加 16名 (大人 15名、小学 1名) 会員スタッフ 7名 (会員 5名、講師 2名)



ハスの説明をされる雉間さん



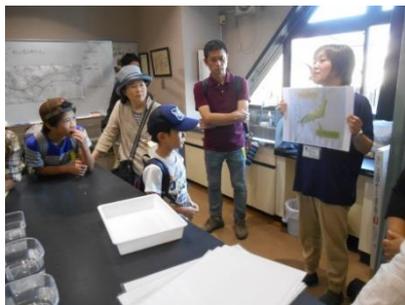
手賀沼観察の期待が高まる



蓮台とハチスの談議を終えて



博物館内のジオラマ



鳥博館内で学芸員の解説を聞く



鳥博前での一行

参加者や実施団体の感想	流山市のツーリング仲間、手賀沼は遠くてねと云われて私は彼を誘い、柏ふるさと公園から曙橋までのサイクリングロードと一緒にツーリングした。彼は満足して今も楽しんでいる。今回の船上見学で市民マラソンの盛況さや手賀の景観を楽しめるサイクリングコースの素晴らしさをPRした。
-------------	--

企画名	手賀沼もっと知ろう！大津川流域の水調べと手賀沼船上見学会
実施団体	団体名 手賀沼流域フォーラム松戸実行委員会 問合せ先 中岡 丈恵 TEL: 047-385-8950 FAX: 047-366-1325 Email: naka.hta@kzc.biglobe.ne.jp
目的	松戸市内に手賀沼流域の地域があることを知らせ、そこに流れる大津川(排水)を調べ、手賀沼で船に乗り沼を知る。汚染と浄化を考える1歩とする。
日時	2016年7月23日(土) 9:00~17:00
プログラム・概要・ルート等	9:30 松戸市六実市民センター集合 水調べの説明 10:00 マイクロバス乗車 (バスと伴走車松戸市手配) 出発 大津川支流と排水溝など8ポイントの観察・水質検査 12:00 昼食(鎌ヶ谷市北部公民館・学習室) 12:30 六実と周辺の歴史を学ぶ 13:00 バス乗車・出発 14:00 船上見学(手賀沼公園から乗船) *船内にて手賀沼の水とヘドロ検査 14:50 我孫子市鳥博物館見学 *案内:博物館友の会会長 木村稔さん 手賀沼の生き物調べ 環境学習 どんな魚がいるのかな? *講師:手賀沼水生生物研究会古川さん 沼にかご網を入れて魚を取る方法を体験。お父さんもお母さんも参加して魚をケースに入れました。様々な名前の魚を収穫しました。 17:00 六実市民センター到着・解散
参加対象	小学校以上・小学生は保護者同伴
参加人数	一般参加 21名 (大人 11名、小学生 10名) 松戸市環境保全課 2名 会員スタッフ 3名



●大津川用水路水調べポイント①ジェーソン脇⇒②住宅杯の排水マンホールの中⇒⑤鎌ヶ谷市立第三中学校前合流点



●手賀沼船上見学 水質検査中 ●手賀沼生き物調べ かご網を投入 ⇒どんな魚がとれたかな？

参加者や実施団体の感想	<p>◆子ども/船上見学は蓮がいっぱいあったり、いろんな生きものが確認できて良かった。/魚を取るのが面白かった。◆大人/身近な川から順に手賀沼に移動しながら進めていただいたことで、より理解が深まった。/マンホールの下を通る生活排水や大小の河川の水質などを調べ、それぞれの違いを確認しましたが、普段知ることがない情報を収集出来たので大変有意義なイベントだったと思います。/一日とても内容のある見学会でした。今後も継続していただければありがたいと思います。</p> <p>◆主催者/酷暑の中、長い見学会でしたが、気分が悪くなる方もでないで、ご協力ありがとうございました。これからもよりよい見学会を開催していきたいです。</p>
-------------	---

<p>企画名</p>	<p>学習会「手賀沼、江戸川をもっと知ろう」</p>
<p>実施団体</p>	<p>団体名 手賀沼流域フォーラム松戸実行委員会 問合せ先 中岡 丈恵 TEL: 047-385-8950 FAX: 047-366-1325 Email: naka.hta@kzc.biglobe.ne.jp</p>
<p>目的</p>	<p>流している排水を知り、何かを得て毎日の生活の中に生かしてほしい。</p>
<p>日時</p>	<p>2016年7月27日(水) 9:30~12:00</p>
<p>プログラム・概要・ルート等</p>	<p>会場 松戸市民活動サポートセンター・会議室 開催 挨拶松戸市環境保全課・江部課長 講師 瀧和夫先生(千葉工業大学名誉教授、手賀沼水環境保全協議会専門委員会委員長 数種類の画像を見ながら学習 用意した川水①手賀沼に流入する大津川水(鎌ヶ谷北部公民館脇白幡橋) ②江戸川に流入する坂川の水 ③松戸~市川に流入する国分川 ④印旛沼に流れる船橋市~鎌ヶ谷市~白井市~佐倉市と流れて行く二重川 9:40 瀧先生「沼や川の特徴など・お話し」 (手賀沼の概観、水質の変遷、漁業・農業と生物の多様性、手賀沼に大切な指標) 10:30 参加者が④班に分かれて水の実験に入りました。 質疑・まとめ 12:00 解散</p>
<p>参加対象</p>	<p>中学生~大人</p>
<p>参加人数</p>	<p>一般参加8名(大人7名、中学生1名) 松戸市環境保全課4名 会員スタッフ3名</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="201 1093 595 1384"> <p>●講師の瀧和夫先生のお話し</p> </div> <div data-bbox="619 1093 1013 1384"> <p>●先生お手製の透視度計で水質検査</p> </div> <div data-bbox="1034 1093 1428 1384"> <p>●実験の様子</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="349 1440 715 1713"> <p>●紫キャベツ色素を用いた水溶液のpH調べ 川の水や合成洗剤、レモン、MgOなどの水溶液で検査</p> </div> <div data-bbox="876 1440 1246 1713"> <p>●バックテスト</p> </div> </div>	
<p>参加者や実施団体の感想</p>	<p>◆中学生/手賀沼船上見学が定員で参加できなかったが今回の学習会で、川のいろいろなことを知れたし、自由研究もかなり進んだので、すごく来て良かったと思いました。 ◆主婦/水に関してあまり知りませんでしたでしたが実験をして少しわかりました。/飲み水は購入した事はありません。良い環境に住んでいるので、汚染をあまり感じたことはありませんでした。 ◆男性・自然、生態への影響についての考察をもう少し詳しくお願いしたかった。江戸川についての話しも、もう少し聞きたかった。/実験について、予想・実験・考察の3つをしてほしかった、とはいえ面白かったですよ。 ◆主催者/環境の講演会は難しいのですが松戸市坂川、江戸川流域の参加者から新たな感想をいただきました。参加者が少なかったので満足のいく質疑が出来たと思いました。</p>

企画名	こんぶくろ池から学ぼう 雨水の行方	
実施団体	団体名 NPO 法人せっけんの街 問合せ先 藪腰静香 TEL: 04-7134-0463 Email: honbu@sekkenomachi.org ホームページ: http://www.sekkenomachi.org/	
目的	手賀沼の三大水源のうち唯一現存する湧水池を散策し、湧水の減少の現状等の説明を受ける。大地への雨水浸透を目的に家庭でできる雨水の利用を考える。	
日時	2017年3月11日(日) 9:15~17:00	
プログラム・概要・ルート等	9:15 新松戸駅ロータリー集合 9:30 マイクロバス乗車・出発 10:00 「こんぶくろ池自然博物公園」散策 NPO 法人こんぶくろ池自然の森 古橋さんの案内と説明を受けた。 12:15 昼食 道の駅しょうなん (昼食代各自負担) 12:45 手賀沼を見てみよう 北柏ふるさと公園 美手連 八鍬さんの案内と説明を受けた。 14:00 「旧吉田家住宅歴史公園」見学 (現存する主な建物は江戸末期の造営) 15:30 「NPO 法人せっけんの街 手賀沼工場」見学 17:00 新松戸駅前 解散	
参加対象	手賀沼流域の市民 (松戸市、鎌ヶ谷市等)	
参加人数	一般参加 11名 (大人 11名) 松戸市環境保全課 2名 会員スタッフ 3名	
		
こんぶくろ池自然博物公園	NPO 法人こんぶくろ池自然の森の古橋さんのお話を聞く	北柏ふるさと公園から、手賀沼のナガエツルノゲイトウ繁茂の現状を見る
		
旧吉田家住宅歴史公園	せっけんの街 手賀沼工場見学 (せっけんを炊く大きな釜!)	こんぶくろ池自然博物公園で記念写真
参加者や実施団体の感想	<ul style="list-style-type: none"> • こんぶくろ池は 息が自然にできる感じです。踏圧 (歩いてふんでしまう) で保水力が弱くなる自然はデリケート。もっと ゆっくりしたかった、又来ます。 • 手賀沼のナガエツルノゲイトウ除去は大変な作業ですね。自然環境は「気にしない」と壊れてしまう。先ず皆で「気にする」ことが 大事!! 	

<p>企画名</p>	<p style="text-align: center;">大津川の水辺を知ろう</p>	
<p>実施団体</p>	<p>団体名 鎌ヶ谷・大津川を清流にする会 問合せ先 尾崎 建夫（代表） TEL: 047-444-0046</p>	
<p>目的</p>	<p>大津川の清流化をめざし、地域の人々と水辺に住む生き物たちが親しめる環境を作る。</p>	
<p>日時</p>	<p>2016年10月16日（日）9:30～12:00</p>	
<p>プログラム・概要・ルート等</p>	<p>9:00 北部公民館玄関前 集合（出席確認） 会場（母路橋）までの移動の間、大津川に生息する生き物、植物等を観察しながら、会代表が会活動（草刈り、清掃など）等の説明を行う。</p> <p>9:15 ①会の趣旨説明、②代表挨拶、③講師紹介、④参加者の自己紹介、⑤作業内容及び注意事項確認</p> <p>9:45 川の中の生き物採集及び講義 （講師：千葉県環境学習アドバイザー 須藤雅彦氏） 川の中で生き物採集（採集者：須藤講師、市職員の2名）を行い、カダヤシ、ドジョウ等が確認できた。</p> <p>10:30 水質調査及び講義（須藤講師） ①手賀沼親水広場下の水、②母路橋下の水、③オレンジジュースを千分の1に薄めた水、④オレンジジュースを一万分の1に薄めた水のCOD（化学的酸素要求量）を対比することにより、川の水質状況を知る。</p> <p>11:15 反省会及び懇親会 12:00 終了、解散</p>	
<p>参加対象</p>	<p>どなたでも</p>	
<p>参加人数</p>	<p>一般参加 11名（大人8名、子ども3名） 会員スタッフ 11名（会員7名、講師1名、市職員3名）</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>全体会(自己紹介、作業内容等の説明)の様子。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>川の中に生息している生き物を採取中。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>水質調査(パケットテスト)の使用方法を説明。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>パケットテストの測定中。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>会活動のパネル展示風景。</p> </div> </div>		
<p>参加者や実施団体の感想</p>	<p>川の中の生き物や水質調査結果の説明がとても分かりやすかった。 生き物採取で網から生き物を取り出す時は楽しかった。大津川周辺の原風景（里山）は残していきたい。今年度は鎌ヶ谷市自治会連合協議会主催のふれあいラリー（ウォークラリー）のコースに母路橋が設定され、ウォークラリー参加者からもパネル展示が好評であった。</p>	

企画名	竹炭・華炭を焼こう～間伐した竹を使って～
実施団体	団体名 栗野の森の会 問合せ先 代表 小出達雄 TEL: 047-446-3795 Email: tatutojun@ozzio.jp
目的	森や草原に侵蝕する竹を間伐し、いろいろな木の実とともに炭にして自然とふれ合おうと共に、大津川に流入する絞水が少しでも増加してくれば幸いです。
日時	2016年11月26日(日) 9:00～12:00
プログラム・概要・ルート等	森や湿地帯に侵蝕する竹(青竹・枯竹)を間伐し、枯竹を燃料に青竹・栗のイガ・モミジバフウ・ヤブツバキ等を缶に詰めて蒸し焼きにします。 3名で1つの一斗缶を使用します。一斗缶の中に枯竹を入れ、煙の色を見ながら強火で焼きます。栗のイガは10分位、竹は30～40分位で、炭になるまでの時間が違うので、出てくる煙をよく見る事が大切です。でき上がった炭は、竹かごに飾って持ち帰ります。
参加対象	小学生以下は保護者同伴
参加人数	一般参加 21名(大人19名、子ども2名) 会員スタッフ 16名(会員10名、講師3名、鎌ヶ谷市環境課2名、お手伝い1名)



①6種の炭材を種類ごとに缶に入れる



②燃料は後ろの竹林の枯竹を活用、説明を受ける



③炭にする青い竹を切り、缶に詰める



④火力が一定になるよう、どんどん燃やす



⑤燃料が足りなくなり、枯竹を切っていく



⑥かごに炭を飾り、赤とうがらしを添えて完成

参加者や実施団体の感想	五種の木の実と青竹を炭にするまで一時間半程、ひたすら燃やし続けます。缶のすきまから出てくる煙がほとんど見られなくなったら炭の完成(?)です。ふたを開けるまでは不安でしたが、黒光りする炭が見事に出来上がり、歓声を上げて喜んでいました。かごにいろいろな炭を盛るときもうれしそうでした。
-------------	--